

Q19 級友とトラブルが起きた場合の対応

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

小学校5年生のA君は、友だちが何もしていないのに、「〇〇君が僕をたたいた」と言い、友だちを困らせることがあります。それが原因でけんかに発展することもあります。またB君は、状況に関係なく友だちに同じ質問を繰り返してトラブルになることがあります。

自閉症の子どもは、人に対する反応が独特であったり、コミュニケーションの手段である言葉の発達や、場や状況に応じた会話をすることが苦手です。また、フラッシュバックと言って、過去に起きた友だちとのトラブルやケンカを突然思い出し、それがあたかも今起きたかのように感じて、再度トラブルの原因になることがあります。

〈このような場合の支援 1〉

小学校6年生の知的障害を伴う自閉症の男児。毎回同じことをしつこく友だちに聞き、自分が意図する反応が返ってこない、質問はさらにエスカレートして友だちにつきまとうことがあります。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 1回は質問に答えるが、2回目からの同じ質問には、「さっき言ったよ」「同じことを聞いたよ」と言って、穏やかに質問をさせない方向にもっていく。
- ② クラスの子どもには、「何かあったら先生に伝える」、「その子どもを叱ったり指導したりするのは先生だけ」ということを伝えておく。
- ③ 教師との約束では質問は2回までとし、質問した場合は表にシールをはるなどして、約束の回数以上の質問をしないよう、視覚的に本人がわかるような工夫する。
- ④ 質問を繰り返すことは、本人の何らかのサインと受け止めて、可能なら気分転換を図ったり、本人の他の興味や関心に注意を向ける。

〈このような場合の支援 2〉

小学校5年生の高機能自閉症児の男児。ゲームや遊びの最中に、過去に友だちに言われたことを思い出し、いきなり相手をなじり始めてけんかに発展する場合があります。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑤ 厳しい叱責はしない。まず過去に友だちから言われた内容に関して、本人の感じた悔しさを受け止める。
- ⑥ けんかの原因になった過去の友だちの言動は、今の状況と関係がないことを教師と一緒に確認する。
- ⑦ 過去のことを突然言っても、周囲の友だちは混乱するという状況を教える。
- ⑧ 周囲の子どもには、前のことを思い出して突然言うのは、本人のくせとして理解してもらうよう配慮する。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子